

# 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業 実施結果報告書



派遣期間：平成28年7月27日（水）～8月2日（火）

愛知県政策企画局国際課

## 目次

1	派遣者名簿	1
2	事前説明会・知事表敬訪問	2
3	バンコク都派遣	
	全体行程	3
	< 1日目(7月27日) >	4
	出国	
	バンコク都知事表敬訪問	
	バンコク都オリエンテーション	
	ラッタナーコシン歴史展示館視察	
	< 2日目(7月28日) >	6
	在タイ日本国大使館訪問	
	トヨタ自動車バンポー工場視察	
	< 3日目(7月29日) >	7
	マッサヨンバンガピ高校訪問	
	バンコク都主催ホストファミリーとの夕食会	
	< 4日目・5日目(7月30日・31日) >	10
	ホームステイ	
	< 6日目(8月1日) >	13
	Wat Phra Kaew(ワット・プラケオ) Grand Palace(王宮)視察	
	ジムトンプソンミュージアム見学	
	夕食会及び終了式	
	< 7日目(8月2日) >	14
	帰国	
4	派遣高校生報告書	15
	(参考)	
	「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」参加者アンケート	60

# 1 派遣者名簿

高校生(12名)

	学校名	氏名	学年	性別
1	千種	まつやま あやか 松山 絢香	2年	女
2	中村	とくなが なおみ 徳永 直実	2年	女
3	瀬戸西	ひらい みゆう 平井 美有	2年	女
4	尾北	いとう めぐみ 伊藤 萌	2年	女
5	一宮西	いまい きり 今井 紀里	1年	女
6	津島	たけたに ゆうか 竹谷 祐香	1年	女
7	常滑	とみなが ふたは 富永 双葉	2年	女
8	豊田北	さわだ しゆう 澤田 志侑	1年	男
9	西尾	まつばら ななか 松原 菜々花	2年	女
10	刈谷北	ななみ 加古 菜々実	1年	女
11	豊橋東	こばやし けいた 小林 奎太	2年	男
12	御津	しらがき ゆうな 白垣 優奈	2年	女

引率者(3名)

	所属	役職	氏名	性別
13	愛知県国際課	課長補佐	本庄 俊和	男
14	愛知県国際課	主査	中野 善隆	男
15	豊橋東高校	教諭	大浜 夕香	女

## 2 事前説明会・知事表敬訪問

### <事前説明会>

日時：平成 28 年 7 月 4 日（月）14 時～16 時 00 分

場所：あいち国際交流プラザ「研修室 2」

内容：自己紹介、渡航概要説明、グループワーク、タイ語勉強会



### <知事表敬訪問>

日時：平成 28 年 7 月 4 日（月）16 時 30 分～16 時 50 分

場所：愛知県公館

内容：自己紹介・抱負、知事挨拶、記念撮影



各生徒は、自己紹介の後、それぞれ派遣の抱負を発表しました。  
知事からは、「異文化に直接ふれてもらい、目的を持って記憶に残る実り多いものにしてもらいたいと思います。元気で頑張ってきてください！」と激励の言葉がありました。

### 3 バンコク都派遣

全体行程：平成 28 年 7 月 27 日（水）～8 月 2 日（火）

行 程		宿泊
7/27 （水）	08:30 集合（中部国際空港 3F 出発ロビー「案内所」前） 10:10 中部国際空港発（JL737） 13:55 スワンナプーム国際空港着 15:30 バンコク都知事表敬訪問 16:00 オリエンテーション（バンコク都庁） 17:00 ラッタナーコシン歴史展示館視察 19:00 夕食 20:00 ホテルチェックイン	ホテル
7/28 （木）	08:00 ホテル発 09:30 在タイ日本国大使館訪問 12:00 昼食 13:00 愛知県進出企業（トヨタ自動車バンポー工場）訪問 18:00 夕食	ホテル
7/29 （金）	08:20 ホテル発 09:00 マッサヨンバンガピ高校訪問 17:00 ホテル着 18:30 ホストファミリーとの顔合わせ夕食会	ホテル
7/30 （土）	終日 ホームステイ（08：00 ホテル発）	ホーム ステイ
7/31 （日）	終日 ホームステイ（17：00 ホテル着） 18:00 夕食	ホテル
8/1 （月）	09:30 ホテル発 10:00 ワット・プラ・ケオ（王宮寺院）見学 11:30 昼食 13:30 ジムトンブソンミュージアム見学 17:30 夕食（バイヨークスカイホテル） 20:30 スワンナプーム国際空港へ出発	機中泊
8/2 （火）	00:25 スワンナプーム国際空港発（JL738） 07:55 中部国際空港着 解散（中部国際空港 2F 国際線到着ロビー案内所前）	-



1日目：7月27日（水）

< 中部国際空港集合 >

時間：8時30分集合

場所：中部国際空港 3F 出発ロビー

「案内所」前

みんなは、これから出発することで、期待と不安が交錯して緊張した表情でした。



< バンコク都知事表敬訪問 >

時間：15時30分～16時

場所：City Hall

内容：バンコク都知事挨拶、愛知県国際課課長補佐挨拶、愛知県高校生自己紹介、愛知県高校生代表挨拶、記念品交換、記念撮影

～バンコク都知事挨拶～

今回、愛知県の高校生のみなさんをバンコクで受入れることができたことを非常に嬉しく思います。バンコクでは高校訪問やホームステイなど数々の交流プログラムを用意しており、是非交流を深めてください。また、日本とは違うタイの文化にたくさん触れて様々な経験をしてもらい、タイに再び訪問してくれることを願っています。

本年10月には、バンコク都の高校生が愛知県を訪問しますが、このような交流を続けていくことが両地域の絆をさらに深めていくと確信しています。是非、今後も引き続き相互交流を続けていきたいと思っています。



突然、豪華な部屋に案内され、みんな驚きつつも、暖かいお出迎えに感激でした。

< バンコク都オリエンテーション >

時間：16時～16時30分

場所：バンコク都庁内会議室

内容：バンコク都国際課長による  
全体日程等説明

国際課長さんから英語で全体の説明を受けました。みんなは、海外での生の英語に真剣に耳を傾けていました。



< ラッタナーコシン歴史展示館視察 >

時間：17時～18時

場所：ラッタナーコシン歴史展示館

内容：古代から続くタイの文化と歴史がわかりやすく展示されており、ガイドからの説明に従って館内を視察しました。



タイの雰囲気満載でしたが、この頃からみんなが打ち解けてきた感じ。

2日目：7月28日（木）

<在タイ日本国大使館訪問>

時間：9時30分～10時30分

場所：在タイ日本国大使館

相手方：安川参事官 他

内容：タイ王国及び大使館の概要説明、外交に関する質疑応答等



外務省や国際機関への就職など、将来のキャリアを見据えた積極的な質問が多くありました。

<トヨタ自動車バンポー工場訪問>

時間：13時00分～15時00分

場所：トヨタ自動車バンポー工場

内容：会社概要説明、工場見学、質疑応答



日本企業の海外進出や現地従業員の雇用対策など貴重な話が聞けました。



3日目：7月29日（金）

< マッサヨンバンガピ高校訪問 >

時間：9時～16時

場所：マッサヨンバンガピ高校

内容：歓迎式典、授業体験、送別会

【お出迎え】



【歓迎セレモニー】



【午前の体験授業】



【昼食の様子】



【午後の体験授業】





## 【送別会】



マッサヨンバンガピ高等学校に到着すると、校舎からあふれるほど多数の生徒から日本とタイの国旗を打ち振っての熱烈な歓迎を受けました。その後、派遣生徒一人ひとりのお世話をしてくれるバディと一緒に歓迎セレモニーに参加し、午前中の体験授業に向かいました。最初の音楽の授業では、音楽を通じてすぐにうち解けることができ、また、理科の授業では、一緒に押し花を作るうちに親密感も沸いてきたようです。

昼食会は、生徒がタイの民謡や聞きなれたドラえもんの曲を演奏する和やかな雰囲気の中でタイ料理をいただきました。

午後の体験授業では、3つのグループに分かれてレザーキーホルダー、タイデザート、金のプレスレットをそれぞれ作りました。どの授業でもタイの文化に触れることができ、とても貴重な体験となりました。

最後の送別会では、日本側から「スキヤキ（上を向いて歩こう）」の合唱と「日本に関連するクイズ」、タイの高校からは、「民族舞踊」の実演があり、会場は大いに盛り上がりました。

学校を出発する際には、多数の生徒が花道をつくり、記念写真や名刺交換などでいつまでもバスに辿り着けないほどでした。参加生徒にとっても忘れ難い思い出となったことと思います。

4・5日目：7月30日（土）～31日（日）

<ホームステイ>

高校生	ホストファミリー
松山絢香、徳永直実	Mrs. Thapanee Chamriangrit
平井美有、伊藤萌	Mrs. Phenpit Rod-anan
今井紀里、竹谷祐香	Mrs. Chawanart Simathammanan
富永双葉、松原菜々花	Mrs. Sumon Buranasomphop
加古菜々実、白垣優奈	Ms. Niccha Leeprasert
澤田志侑、小林奎太	Mrs. Sudarat Sudsawat

～ホームステイの様子～

Mrs. Thapanee Chamriangrit & 松山絢香・徳永直実





Mrs. Phenpit Rod-anan & 平井美有・伊藤萌



Mrs. Chawanart Simathammanan & 今井紀里・竹谷祐香



Mrs. Sumon Buranasomphop & 富永双葉・松原菜々花



Ms. Niccha Leeprasert & 加古菜々実・白垣優奈



Mrs. Sudarat Sudsawat & 澤田志侑・小林奎太



ホームステイ先では、派遣生徒は様々な体験をしました。  
アユタヤの寺院に行ったり、象に乗ったり、タイならではの屋台や大型のショッピングセンターなど、ホストファミリーとタイの文化等に触れられるいろいろな所に連れていってもらいました。中には、マラソン大会に参加した人も・・・。

また、タイの伝統的な衣装を着せてもらったり、タイと日本の言葉を互いに伝え合うなど、家族と同じように接してくれたおかげで、ホームステイに行く前の緊張感や不安はすぐに消え、ホストファミリーと過ごした1泊2日の時間は、忘れられない最高の思い出となりました。

タイで体験したホームステイでは、みなさんがそれぞれの大切な何かを学んだはず。この貴重な経験を今後の人生に大きく役立ててもらおうとともに、タイで受けた歓迎や親切をいつかどこかで返すことができたら、素晴らしいことですね。



6日目：8月1日（月）

<Wat Phra Kaew（ワット・プラケオ）、Grand Palace（王宮）視察>

時間：9時～11時30分

場所：Wat Phra Kaew、Grand Palace

内容：1782年、バンコク王朝の始祖であるラーマ1世が着工し、歴代国王が増改築した王宮を視察。現国王は住んでいないが、祭典や迎賓館として利用されている。



タイならではの暑さの中、頑張って歩いて見て回りました。

<ジム・トンブソンミュージアム見学>

時間：13時30分～15時

場所：ジム・トンブソンミュージアム

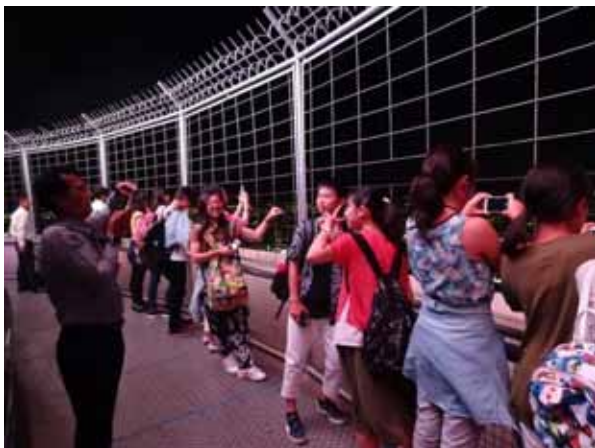


謎めいたジム・トンブソンの過去を日本語で説明してくれたお姉さんがチャームングでした。

<夕食会及び終了式>

時間：18時～20時30分

場所：BAIYOK SKY HOTEL



素晴らしい夜景の中、最後の夜にふさわしい夕食会となりました。

7日目：8月2日（火）

<帰国>



みんなで無事に帰国することができました。お疲れ様でした。



#### 4 派遣高校生報告書

	学校名	氏名
1	千種	松山 絢香
2	中村	徳永 直実
3	瀬戸西	平井 美有
4	尾北	伊藤 萌
5	一宮西	今井 紀里
6	津島	竹谷 祐香
7	常滑	富永 双葉
8	豊田北	澤田 志侑
9	西尾	松原 菜々花
10	刈谷北	加古 菜々実
11	豊橋東	小林 奎太
12	御津	白垣 優奈



今回の派遣事業でたくさんの経験をし、全てが刺激的で新鮮でした。

バンコクはとても発展していて高層ビルやコンビニ、特にセブンイレブンが多数ありました。しかし、少し車を走らせると田舎で自然が広がっていて、タイの様々な面を知ることができました。

まず、バンコク都庁を訪問しバンコク都知事、バンコク都の職員の方々とお会いしました。知事がお話しされている時などの表情はとても穏やかで微笑みの国、タイの象徴だなと思いました。



在タイ日本大使館・トヨタ自動車バンポー工場訪問

在タイ日本大使館の敷地入るときには、厳しい警備のもととても頑丈な門を通りませす。建物に入るときにも職員しか持つことのできないカードキーを使い警備体制が万全でした。日本人の職員の方とタイ人の女性秘書が案内をしてくださいました。中に入ると、日本語や日本らしい置物、人形があり日本にいるような気分でした。私たちに大使館での仕事や外交官についてお話してくださいました。

トヨタ自動車工場では、工場内の見学をしました。小学生の時に、愛知県にあるトヨタ自動車工場へ工場見学をしに行きました。その時に精密ですばやい作業をしているんだなと思いました。バンポー工場も同様に安全、精密で、一人一人が乗る人のことを考え一生懸命働いていました。また、街中でトヨタの車がはっっており、日本の技術はやはりすごいんだなということを改めて、実感しました。

在タイ日本大使館・バンポー工場を訪問し、海外で活躍する日本人をみて憧れを抱くと同時に、私も海外で活躍したいという思いがより一層強くなりました。

## Mathayom Banbangkapi School 訪問

学校に到着し、門を通るととても大きな歓声があがりました。たくさんの生徒が窓から日本の旗を私たちに向かってふってくれました。あまりの歓声にとても驚きました。まず歓迎式がありました。私達もこの訪問を楽しみにしていたし、タイの生徒もこの日をずっと待っていたと言ってくれました。私たちは音楽、生物の授業や物づくりを体験しました。音楽の授業では、タイの太鼓のようなものを演奏したり、その演奏に合わせてタイの伝統舞踊を踊りました。タイの生徒はとても慣れていて、動きがなめらかでした。生物ではタイの生徒とペアになり花の解剖を行いました。ペアで行ったので、会話が弾み距離が近づきました。私達からは日本の歌と日本に関するクイズを披露しました。日本のことがよく伝わる内容だったと思うので、タイの生徒に楽しんでもらえることが出来、嬉しかったです。やはり盛大な歓迎は忘れられません。



## ホームステイ

1 番印象に残っているのはホームステイです。私のホストファミリーはホストファザー、マザー、そして 3 人のホストシスターでした。ホストファザー、マザーはタイ語しか話せませんでした。3 人のホストシスターは全員英語が話せるのでタイ語を英語に訳して伝えてくれました。まずはアユタヤに行きました。日本人村に行ったり屋台でご飯を食べました。アユタヤでホストシスターと初めて象に乗りました。象が道路の端を歩いていると珍しい状態に対して現地の方は気にせず普通の道路をはしっているかのように運転をしていました。その後アユタヤフローティングマーケットへ連れて行ってくれました。たくさんの食べ物や雑貨、服などが売られていました。すべてとても安く現地の人にも手にたくさんの荷



物を抱えていました。タイスタイルのアイス、蒸しパン、魚の練り物など食べ歩きをしました。そこでホストマザーがタイの伝統衣装のようなものを選んでくれて、プレゼントしてくれました。家に帰って着て見せたらとても喜んでくれて、家族みんなで写真をたくさん撮りました。その日は疲れているはずなのに、話が盛り上がり、夜の十二時まで本当に楽しい時間を過ごしました。2日目は午前中は家でホストファミリーと会話をしながらゆっくりと過ごしました。11時くらいに家を出発し、お昼ご飯は大型ショッピングセンターの中の丸亀製麺で食べました。現地ではとても人気らしくお店には列ができるほどでした。そのあとはマーケットに行き、ホストシスターが私たちにおそろいのプレスレットを買って、プレゼントしてくれました。このプレスレットは私にとって大切な宝物となりました。ホストファミリーは本当に優しく、私たちの事を常に楽しませてくれました。最後は別れるのがつらくお互いに涙を流してしまいました。このホームステイは最高の思い出です。



タイの人は優しくおだやかでした。また街中に国王と王妃の写真が掲げてあって、タイの人がいかに敬愛の念を持っているかが、よくわかりました。タイには日本のものがたくさんありました。そしてタイの人は日本の事をとてもよく思っており、日本人としての誇りを改めて感じました。この素晴らしい経験を自分の将来につなげていきます。



# Homestay



## ホームステイで学んだこと

数ある思い出の中からホームステイで学んだことを紹介します。

# 思い出



～会食～

ホームステイの前日にホストファミリーとお会いして、一緒にご飯をたべました。すぐく緊張してあまり食べられなかったし、お話もあまりできませんでした。



～サービスエリア～

最初はサービスエリアのようなところにとまって、魚のすり身にチリソースがかかったようなものをかってもらいました。おいしかったけど、車酔いしていたので、あまり食べられなかったです。タピオカ入りのアイスティーも飲んだのですが、半分以上がシロップで、きつかったです。





## ～アユタヤ日本人町～

ホストファミリーは最初にここに連れてってくださいました。昔、ここに日本人がたくさん住んでいたそうです。なんとここで、日本人の方に会ったんです！！しかも愛知県民で運命感じたし、嬉しかったです！！



## ～昼食～

昼食にはタイでは有名というヌードルのようなものを食べました。これを作るときには船の形をした厨房のなかでつくられます。味も二種類あります。私はタイ料理がもともと苦手なのですが、やっぱり少し合わなかったです、。。



食後にはかき氷も食べました。3つトッピングできました。





### ～象乗り体験～

この日、私は初めて象に乗りました！とっても楽しかったのを覚えています。象の肌はとってもざらざらしていました。運転してくれる人もとっても優しくかったです。私が一番驚いたのは、象が鼻でチップを吸って受け取っていたところです。20バーツを鼻で吸って、運転手さんに渡していました。少し怖かった。きっと最初で最後の象乗りになるだろうなあと思ったらとても貴重な経験でした。



### ～マーケット～

ここは日本でいう商店街の様なところでした。たくさんのお店がありました。ここでもたくさんの物を食べました。一番驚いたのは、マンゴーです。緑色で酸っぱかった～。右の写真は、川をボートでお散歩しているところです。そして私たちは、タイの民族衣装をかってもらいました。とってもかわいい！色もホストマザーがチョイスしてくれました！最後に私たちは昔タイとミャンマーが戦争しているときのショーを見ました。そこで誤発砲が起こってしまい、小さな火事が起こってちょっと怖くなりましたが、タイの歴史を知れて面白かったです。そしてこれも驚いたのですが、トイレはまさかのお金をいれないと入れない！！すごく驚きました。



### ～夜ご飯～

夜ご飯は大きな川が見えるところで食べました。お昼も遅かったし、マーケットでたくさん食べさせてもらったし、もう満腹状態でした。ホストシスターたちも同じくらいの量を食べてるのに、夜ご飯もたくさん食べてびっくり！それなのに、あんなに細くて、、すごい！私的には、ホストマザーがマーケットで買ったみどりのシャワーの形をしている豆が一番美味しかったです。





## 2日目



### ～朝食～

朝食はたくさん用意してくださいました。もう食べきれない！ってほど。私がこの一週間で一番気に入った食べ物がこの朝食にでました。グアバです！！少し酸っぱくて、梨のような食感。すごくおいしかった～。日本に持ち帰りたかった～！！右の写真は大好きなクンメー（お母さん）と大好きなグアバ！朝食を食べ終えて、家の前でたくさん写真を撮ってからマックスバリュへ行って、ショッピングモールへいってお昼ご飯を食べました。なんと！丸亀製麺！きつねうどんをたべました。



### ～昼食～

ここにはもちろん日本と同じメニューもありましたが、タイ風のものもたくさんありました。パッタイというタイの焼きそばのようなものもここにはありました。そのあと、メロンのかき氷をたべました。とってもふわふわだったけどめっちゃ寒かった！





## ～マーケット～

ホストファミリーと過ごす最後の時間。仕事でいなかったお姉さんも合流して、ホストシスターたちとたくさんお買い物をしました。このブレスレットはこの5人だけのお揃いです。今も毎日大切につけています。このマーケットはすこし危ないと言われていたので、マーケットの写真は1枚もとれなかったです。でも自分の頭のなかには鮮明に残っています！！

## ～帰り～

ホテルへ戻るまで、もうそんなに会えることはないということを実感できませんでした。ホテルに戻ってからみんなで写真を撮りました。最後、お別れの時、ずっと笑ってたクンメーが1日だったのに泣いてくれました。そのときやっと実感がわいて私も泣いてしまいました。もう一度会いたい。こんなに素晴らしいホストファミリーに出会えて私は幸せだし、第2の家族です！

## 最後に

私はこのホームステイを通して、タイの方の温かさを心から感じられました。ずっと笑顔だし、家族をととても大切にしている仲良しだし、重い荷物を持っているときは嫌な顔ひとつせず持ってくれるし、すごく親切で人のために尽くそうとしているタイの方の姿に感動しました。わたしはこれをきっかけに家族をより大切にしようと思ったし、これからは人のために動こうと思うことができました。ホームステイは私を変えてくれました。たくさんたくさん感謝してもきれませんが、忘れられない経験と思い出をありがとうございました！そして、関わってくださったすべてのみなさん、ホストファミリーのみなさん、たくさんのコップンカー！！！！



1 日目～バンコク都庁・タイ展示館～

バンコク都知事表敬訪問では、スクムパン・ポリパット都知事のお話を聞くことができました。お土産で、トゥクトゥクという乗り物の置物をいただきました。

Rattan akosin exhibition hall では、タイの歴史や文化を学びました。大きなドームの中に入りみんなで輪になって映像を見たのが思い出です。



2 日目～日本国大使館・トヨタ自動車・Siam niramit～

日本国大使館では、大使館での仕事について学ぶことができました。トヨタ自動車バンポー工場では、タイの車の特徴や車ができるまでを工場見学で学びました。タイでは、ハイラックスという、トラックの様な車がよく使われているようです。



Siam niramit は、舞台がみれる施設で出演総勢100人にも及ぶ大規模なものでした。舞台はタイの物語が様々ミュージック、衣装や出演者の方お城などの建物によって繰り広げられました。時にはゾウが出演したり、人が中を舞ったり踊ったり羊が出たり突然、川が出現したりとても幻



想的な時間をすごすことができました。その他にも、タイの村があり、船に乗ったり、伝統的なお菓子や家屋をみました。

3 日目～タイの高校訪問・ホストファミリーと対面～

車から降りて校門の前に立った時は、驚きと感動でとても幸せな気持ちでした。なんとマーチングバンドの方が演奏してくださっていて、その後ろで何千人もの生徒が歓声とともに迎えてくれたのです。その規模の大きさはすごかったです。その後は一日学校を紹介してくれる、バディの子と対面しました。



1限目の授業は、音楽でした。クロン・ヤーオという太鼓の様なもので肩からかけて演奏しました。授業では、**パッ**と言われた時に手をパーにして真ん中をたたき**フォン**と言われた時は太鼓の橋をたたきます。これを利用した**～フォン**というリズムと **フォン～フォン～フォン～フォン～パッ**というリズムを組み合わせで演奏しました。また後半は、タイの伝統的な舞踏についても学びました。とても手の形が綺麗でしたが難しかったです。ゆったりした動きでとても心が落ち着きました。



パッ～フォン～パッ～フォン～パッ～フォン



2限目の授業は、理科でした。パワーポイントを使っ



た授業で、ブーゲンビリアという花について学びました。プリントに、花卉、めしべやおしべがくや葉っぱがどれかを考えて貼るという作業でしたが、マニアックな部品を探すのには時間がかかりました。また花が葉っぱのように薄くて、様々な色があるのが特徴です。バディに教えてもらいながら無事にコンプリートできてよかったです。

**昼飯**の時間、昼食会場に着くと何人かの生徒が伝統的な楽器で演奏してくれました。私たちが食べ終わるまで弾いてくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ゆったりした曲もあればドラえもんの曲などもありました。お昼ごはんはパッタイでした。薄い卵の生地で麺が包んである料理です。パッタイには、食べ方があるようで、スダチ?の様な柑橘の汁を垂らして中の麺と卵の生地をまぜて食べるようです。中の麺は、ソースの様な味でした。デザートは、カオニアオマムマンという甘いもち米を使ったものでした。マンゴーとココナッツミルクを合わせて食べるのが定番のようです。甘いもち米は、オレンジ色や黄緑色など鮮やかでした。またマンゴスチンというフルーツを食べました。マンゴーとは関係がないようですが、とても美味しかったです。

**3 限目**は、美術の時間でした。革の様な素材に模様をつけてストラップにしたり、金色のプレスレットにマニキュアで色をつけたりしました。

**4 限目**家庭科でした。ブア・ローイというタイのスイーツを作りました。ココナッツミルクにカラフルな白玉の様なものが入っているものです。ココナッツミルクがとても甘くてびっくりしました。

最後はお互いに出し物を持って終了!とても名残惜しくて帰りたくありませんでした。MATTHAYOM BANBANGKAPI 高校のみなさん一生忘れられない素晴らしい思い出をありがとう。

その後は、ホストファミリー との初対面。ポンちゃんという一年先輩の娘さんがいました。日本語が堪能でした。

#### 4 日目・5 日目～ホームステイ～

朝ホテルに迎えに来ていただきホームステイ 1 日目スタート!最初はお母さんの実家に行きおばあちゃんと写真を撮りました。その後は、服屋さんに行き、タイの伝統的な衣装をレンタルしていただきました。そしてインドのご飯屋さんに行きサモ サ とチャイティ を食べました。どちらも初めてでしたが美味しかったです、タイとインドは近いからインドの文化もたくさんあるようでした。その後は、ワット・コ にいきました。たくさんの金の仏と大きな塔がありました。また、モーターボートに乗って川を渡って本塔を見に





行きました。その後は、バンコクを中心街に行ってポンちゃん  
と合流しタイ風のすき焼きを食べました。またマンゴタン  
ゴでマンゴーのデザートを食べました。その後は  
Suvarnabhumi という大きなデパートにいきました。車の展  
示場があったり、ボーリング会場があったり、映画館などな  
んでもありました。入る時は軽い荷物検査の様なものもあり  
ます。私は、ホストファミィ とボーリングをしました。

夜ご飯は、Asiatique という所で食べました。港の様な所  
で、昔、日本が戦争の時に支配していた場所だと教えてくれ  
ました。とても豪華なレストランでした。他にも食べ物の屋  
台や洋服、お土産、などとても栄えていました。

夜ご飯をごちそうになり、翌朝5時30分の起床、なぜこん  
なに早いかというと実は、タイのマラソン大会に参加したの  
です。参加賞でメダルを頂くことができました。その後は、  
ゾウに乗りにいきました。とても高くてすごく揺れました。  
そして周辺のいくつかの寺院をめくりホテルに戻ってホーム  
ステイ終了。夜ご飯をとおしてみんなとのぐっと距離が縮  
まりました。



### ～6日目～ワット・プラ・ケオ・ジムトンプソンの家～

ワット・プラ・ケオでは、ガイドの方の説明を聞きながらたくさんの建物を回ることができました。  
綺麗な磁気や金がたくさんあって魅惑的でした、またストーリー性が強い金の像などもありました。エメラルド  
仏という有名な仏像もみることができました。



夜ご飯は、バンコクで一番高いビルで!とても寂しい気持ちだったのを覚えています。最後は回る展望デッキにも上りました。この光景を忘れないようにじっと夜景を見ていました。この後空港に向かってタイ派遣終了。



### ～タイでの生活・文化～

～交通～タイについて初めに思ったことは、道路が三車線だということです。信号の数がすくなく思ったように思います。だから道路を走って渡る事がなんかありました。また車間距離がものすごく近く車の車線変更が頻繁に行われているので、初めは少し怖かったです。また車というよりハイエースやバイクの方が多かったです、たまにトゥクトゥクもいます。バイクには、特に決まりはないのか親子三人で乗っていたり、自由な感じでした。タイでは皇族の方が通る時通行止めになるようです。

～食べ物～食べ物は、青唐辛子のグリーンカレーだったり、トムヤムクンなど辛いものが多いです。また、カニ、海老、魚は頻度が高いですが美味しいです。ナンプラーやパクチーのようにくせがある食べ物も多いです。フルーツの種類は豊富で、スイカ、メロン、ライチ、マンゴー、バナナ、パイナップルとおなじみのものからパパイヤ、グアバ、ドラゴンフルーツ、ドリアン、マンゴスチンなど日本ではあまり見られないものもありました。デザートは、ココナッツミルクを使ったものが多いです。タイ米は、パサパサしてなくて美味しかったです。

～トイレ～公衆トイレなどでは、手を洗う所にみんなで使うトイレトペーパーがあるのでそれをちぎってから個室に入るというシステムです。忘れると大変なことになります。またタイの人はトイレのふたを開けたままにしておくそうです、もし閉まっていると壊れていると思って入らないんだそうです。

～寺院～寺院では、荷物検査があったり、露出が激しい服の人は入れません。また、大仏様にお祈りする時は入る前に必ず靴を脱がなければいけません。

～街並み～お寺がたくさんありました。また道路のわきには、服、葉っぱで作ったおもちゃ、フルーツなど色々な屋台がありました。野良犬が多かったように思います。また電信柱を走るリスを何度か見ました。コンビニエンスストアは、セブンイレブンやファミリー マートなど日本とおなじみで安心しますが日本と同じ商品はなく、タイバージョンです。

～その他～タイは、髪飾りやブレスレットなどゴールドのものが伝統的な衣装とともによく使われています。初めはそれぞれの建物からお香の様なにおいがしましたが、数日たつと慣れてきます。時間は、あまり気にしないように遅れたりすることは日常茶飯事だそうです。ボウリングは日本と異なり少し暗がりで行います、またポップな歌やミラーボールなどまるでパーティーのようでした。買い物のときは絶対買うという時以外はあまり商品を触ってはいけないようです。石鹸が有名のようです。タイは綺麗な人が多いです。そして、穏やかな人も多いです。

全体を通して、沢山の期待を持ってタイに行きました。異文化で異国の人々とコミュニケーションをとることの大変さを実感しました。でもそれを乗り越える事が出来たのは、この事業に関わってくれた全ての人のおかげです。そして、それは一生忘れられない思い出になりました、また、この事業を通して、一生の友達もできました。お互いを刺激しあったことで、積極的に行動できるようになりました。それは、私の大きな自信です。夢のような幸せな日々をありがとうございました。



# Aichi - Bangkok High School Student Exchange Program 2016

尾北高等学校 伊藤萌

サワディー カー

## バンコク都立 Matthayom Bam Bangkapi 高校訪問

門をくぐった時、盛大な音楽パフォーマンスと生徒達の歓声には私は驚き感動しました。私のバディは少しシャイで最初のほうはコミュニケーションをとることが難しかったのですが、音楽の授業やタイ舞踊について教わってる時お互い次第にコミュニケーションをとることが出来ました。私達の行った学校は中高一貫です。中学生はおかっぱ頭で高校生はポニーテールにリボンでした。中学生と高校生が仲良くて日本ではあまり考えられないことだなと思いました。レザーキーホルダー作りとタイデザート作りは良い思い出になりました。ココナッツ料理がたくさん出てきましたが、想像していたより甘くて苦手です。タイ舞踊は手の動きがすごく滑らかでタイの人たちがやると綺麗でしたが、私達がやると難しく綺麗に見せることが出来ませんでした。昼食を済ませた後、次の授業まで時間があつたのでバスケットをしました。タイの生徒達と交流することが出来、楽しく過ごすことが出来ました。



## SIAM NIRAMIT

ここでは、タイの歴史について像と人間が演技しているのを見ました。像がすごく賢く、迫力があり舞台に引き込まれました。タイの伝統的な音楽も迫力がありました。ショーが始まる前に、色々なところに行きました。タイの優しい顔をしたお婆さんが私の腕に変わった呪文を唱えながら白い糸を結んでくれました。切れたら願いが叶うといわれている日本にもあるミサンガみたいなものです。



## HOMESTAY

私は父、母、娘(ポンちゃん 高3)の家族構成の家族にお世話になりました。ポンちゃんは英語・日本語・タイ語を話すことが出来、たくさんコミュニケーションをとることが出来ました。日本語がすごく上手くてびっくりしました。ポンちゃんは、前にこのProgramで愛知県に来たことがありました。ポンちゃんは「文科省に入って東京大学に行く」と言っていました。私がタイにいた時にはすでに一次試験を通過していて一緒に二次試験の面接の練習をしました。二次試験は、日本人が面接官で普通は英語面接らしいですがポンちゃんは日本語をアピールするため日本語面接で挑むそうです。自分の夢に向かって頑張るポンちゃんをすごいなと思いました。私自身すごくいい刺激を受けました。



ワットポーに行きました。雑誌などで見たことがありましたが、すごく大きく、足の裏にはたくさんの仏さまが書いてありすごい迫力でした。

お父さんの大学の時の同窓会でボーリング場にも行きました。私は、すごく久々にやりましたが意外と上手くできて良かったです。日本のボーリング場と違ってタイのボーリング場は音楽がガンガンでミラーボールも付いていてすごく盛り上がりました。音楽は、5 H・1 Dなど流れ好きな歌ばかりで最高でした！

また朝の5時に起きて、4キロマラソンをしました。朝早く起きるのは辛かったけど、参加賞のメダルを貰えたし朝から走るのはすごく気持ちよかったです。

すごく素敵なタイの民族衣装をホストファミリーが貸してくれました。すごくゴージャスで清潔感あふれる衣装でした。

像にも乗りました。最初乗り込むときは怖かったけど、乗ってみるとすごく楽しかったです。

## まとめ

すごく充実して楽しいタイ派遣でした。たくさん学べました。今回の派遣で色々な刺激を受ける事もできました。また早くタイに行きホストファミリーに会いたいです。

# Aichi-Bangkok Exchange Program 2016

一宮西高校 今井紀里

## First day

- ・ バンコク都知事表敬訪問
- ・ オリエンテーション



バンコク都知事表敬訪問では、私たち派遣生をととても暖かく迎えてくださり、緊張がほぐれました。タイの方々の優しさに触れ、自然と笑顔になる回数が多くなりました。

オリエンテーションの最中、タイは雨季ということもあり、突然ものすごい大雨が降り出しましたが数分でやみ、“やっぱり日本と違うんだなあ”と、とても驚きました。期待や不安でいっぱいだった一日目は、あっという間に過ぎてしまいました。

## Second day

- ・ 在タイ日本国大使館訪問
- ・ トヨタ自動車バンポー工場訪問



日本国大使館訪問では、外務省の仕事や国連についてなど、さまざまなことを教えていただきました。私たちの質問にも快く答えてくださり、自分の将来の夢に少しだけ近づけた気がしました。

トヨタ自動車バンポー工場訪問では、ガイドさんに一つ一つ解説をしていただきながら見学しました。日本にはない車を作っているところの見学など、とても貴重な体験をさせていただきました。工場では、日本のトヨタ車をそのまま取り入れていて、日本のものづくりの技術が他国でも認められていることを知りました。

今まで知らなかった部分でも、日本とタイはつながっているんだと気がきました。



### Third day

- ・ Matthayom Ban Bangkapi 高校訪問
- ・ ホストファミリーとの顔合わせ夕食会



高校訪問では、私たちが車から降りた瞬間、鼓笛の演奏が始まり、全校生徒が廊下から旗を振って出迎えてくれました。こんなにも暖かく、優しさに溢れた“おもてなし”は初めてで、最初から涙が出そうだったのを覚えています。

タイの授業は日本とは違い、とても自由な雰囲気がありました。みんな積極的に授業に参加し、そしてなにより楽しそうでした。日本も見習わなければと思いました。

お別れの時には、みんなが名刺を渡してくれたり、写真を撮ろうと言ってくれたりして、別れが辛くなる一方でした。人生で一番と言っても過言ではないくらい、一日が短く感じました。



### Fourth day, Fifth day

- ・ ホームステイ

ホームステイ先の家族は、父、母、19歳の男の子の三大家族でした。はじめは“男の子か！”と驚きを隠せませんでした。とても親切にしてくれて、数え切れないほどの思い出をくれました。ホストファミリーは、水上マーケット、寺院、スーパーマーケット、公園など、たくさんの所に連れて行ってくれました。



水上マーケットでは、日本では考えられないほど川の水が汚く、“私はさっきこの川で泳いでいた魚を食べたのか”と血の気が引く思いをしました。

スーパーマーケットでは、並ぶお店がほとんど見覚えのあるものばかりでびっくりしました。レストラン街も、日本食や、日本語で書かれた看板の店など、どこを見てもタイに居るのを忘れさせるほどでした。タイの日本食レストランでは、日本とまったく同じ味の物が出てくるなど、日本文化がとても愛されているのがよく分かりました。



ホームステイ最終日には、ホストファミリーの誕生日が近かったのと、感謝の気持ちを込めてサプライズパーティーをしました！家族全員がすごく喜んでくれてとても嬉しかったです。息子さんが「君たちは俺の妹だ」と言ってくれたのは、今でも心に残っています。人生初のホームステイ、タイの家族の暖かさを身にしみて感じた二日間でした。



### Sixth day

- ・ ワットプラケオ見学
- ・ サイラムスクエア散策



最終日は派遣メンバーでいろいろなところに見学に行きました。ワットプラケオは全てが金色でとても豪華で、日本では絶対に見られない建物だと思いました。

仏を大切にするタイの人の心が見えました。

サイラムスクエアでは、物価がとても安かったため、たくさんのお土産を買うことができました。

最後の夕飯はとても景色が綺麗なところで食べさせていただきました。

派遣メンバーの皆とも仲良くなり楽しく食事のできたので、ご飯がさらにおいしく感じました！

### まとめ

はじめての海外ということもあり、すべてが新鮮で輝いて見えました。

タイの方はみんな本当に温厚で優しく、常に笑顔でした。そんな素敵な国に行けたことを心からうれしく思います。

一週間と短い間でしたが、積極性や、英語力が上がり、何より自分の夢に近づくことができました。この一週間をこんなにも素晴らしいものにすることができたのは、職員さん、派遣メンバー、タイの方々のおかげです。

この経験をいろいろなことに活かし、意味のあるものにしていこうと思います。

本当にありがとうございました！







# 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業 報告書

愛知県立津島高等学校 竹谷祐香

七日間を振り返って一番に思うことは、タイの人々がとっても温厚だということだ。手を合わせ軽く会釈する様子や、言葉の語尾の柔らかさもその表れだと思う。

誰もが私たちに笑いかけてくれた。親切で、ちょっとしたことにも気を配ってくれていた。

タイの人との交流の中で日本人は愛されているのだなと思う場面が多く見られた。



## 「Matthayom Ban Bangkapi」

タイの高校生たちは私達をタイと日本の旗を振って笑顔で大歓迎してくれた。

歓声のもと校内へ案内された。

互いの紹介の後、タイの高校生の一人とペア（b u d d y）になって様々な活動をした。

一番印象的だったのは、授業と休憩時間だ。長机に大人数で腰掛けて一緒に授業を受けた。隣の子同士が楽しそうに話し合っていた。はじめは驚いたが、「意見交換がしやすいんだよ」とb u d d yが教えてくれた。実際、話し合いながら進められてこういう学習の仕方もいいなと思った。



自由時間に校内を案内してもらった。授業の合間の休憩の姿は国は違っても同じ十代の私達は同じように友人とふれあっているのだなと感じた。ある子は知っている日本語を並べて一生懸命「日本が好きだ」と伝えてくれた。それが何よりうれしかった。

タイの高校生たちにたくさんの笑顔をもたらえた。

## 高校での活動

タイ舞踊&楽器  
生物の授業  
工作  
タイデザート作り



「ホームステイ」

(夫婦と一人息子の三大家族みんな英語が話せて  
息子さんは日本語が上手だった。)

ホームステイ先にお邪魔した。前日の夜あったばかりの  
家族なのに、すごく安心できた。昼は観光地など案内  
してくれた。また、家の中ではゆっくり話もできて  
とても充実した二日間だった。別れ際「私たちは本当  
の家族だ」と何度も言ってくれた。

この家族に出会えて本当によかった。



この派遣で、第二の故郷と家族ができた。

タイに行って目にしたもののすべてが大切な宝物だ。

広い世界を知ったとともに、日本のことをもっと  
知りたいと思うようになった。

高校生のうちにこの経験ができたことを誇りに思う。

大げさに聞こえるかもしれないが、日本に帰ってきて  
いつもの日常の世界が変わって見えた。沢山のものに触れ  
より自分の意識がしっかりした気がする。

タイは私に多くのものを与えてくれた。それを生かすとともに  
沢山のの人に伝えていきたい。



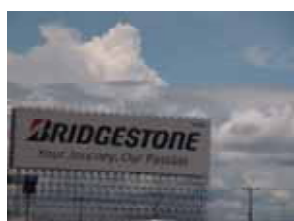
タイの人々は自国愛が強く  
町中に国旗と王の写真がある



タイはバイクが多かった  
道中、怖いを思いをした



都市ではおおきな看板が沢山  
中には日本を感じる物もあった



日本の企業がたくさん  
進出している  
私たちはトヨタ工場へ行った



象のモチーフがあらゆるところに  
やはり、タイの人にとって  
象は身近な生き物のようだ



車からタイの文化を連想する  
金の装飾が見られた 観光で  
寺院を訪れることができた

## バンコクで学んだこと

愛知県立常滑高等学校 富永双葉

初めての海外、初めてのホームステイ、初めて会う人ばかりだったこの経験は一生忘れられないものになった。

一日目 初めての海外に行くなんてほとんど実感がないうまま当日になってしまい、いつも通りに慌ただしく家を出た。二駅しか乗らない電車の中では一緒に行くメンバーと仲良くできるだろうか、本当に生きて帰れるだろうかなんてことを本気で心配していた気がする。これから一週間も滞在するんだという不安がだんだんやってきた。頑張らなきゃ、空港で見送りに来てくれた先生と握手をしたときに強くそう思った。結局その日は都知事にあいさつをし、いろんな説明などを聞き落ち着く暇もなく終わってしまった。



二日目 この日にはゾウを触ったりサーカスを見たりなど改めて自分が海外に来たという驚きと高揚感が強かった。でもそれに比例して焦りも感じていた。私はタイに着いてからまだたったの一度も英語を話していなかった。それはもちろん私だけのことではなかったけれど、このままではいけないという危機感を常に感じていた。そこで何とか勇気を出してタイ人のガイドの人に質問を試みることにした。次の日には学校訪問がありその出し物で漢字を紹介することになっていた。「Are Chinese characters popular in Thailand?」勇気を振り絞って言った。相手には伝わらなかった。もともと自信があった訳ではなかったがこんな質問一つさえできなかったことが悔しかった。もう一度言ってもわかってもらえず私が焦っていると、引率の先生がガイドの人に説明してくれた。とても情けなかった。明日は学校に行く、英語をいっぱい使ってやろう。そう思いながらベッドに入った。



三日目 学校に着いたとたん全校生徒が迎えてくれた。あまりの熱気で自分が有名人になったみたいな気分だった。パディのアンはとても優しく本当にたくさんのことを教えてくれた。生徒達には名刺を渡されたりツーショット



を頼まれたりなどすごく積極的で圧倒されるばかりだった。前日と違い質問の全文は考えずに喋ったが意外とそのほうがスラスラ話せて嬉しかった。学校では次から次へと体験があり、会う人の名前も覚えきれないまま一瞬で一日が終わった。帰る時も全校生徒で見送ってくれた。何よりも人の温かさ感じた一日だった。

四日目、五日目 ホームステイが始まる。私は西尾高校から来た菜々花と一緒にホームステイすることになり、菜々花はとても英語が上手なので私も負けないようにたくさん話しかけようと決意した。どんな家族なんだろう。たった二日でどんな風にタイを知り、日本を知ってもらえるだろうか。いくつか不安はあった。それでもずっと憧れていたホームステイへの期待は大きく、そんな不安はすぐに飲み込まれてしまった。ホストファミリーが来た。私は緊張して自己紹介もきつとぎこちなかったらうけど彼らは私たちを温かく迎え入れてくれた。ホストファミリーとの思い出はどれも本当に楽しいものばかりだったけど何より一番心に残っていることは会話をしていた時間だということに今気づいた。夜にはタイ語を教えてもらったり、日本語を教えたりした。タイの怪談も教えてもらった。次の日にはホストマザーに絵の描き方を教えてもらったり、私と菜々花で白玉を作ったりもした。そのすべての時間がかけがえのない宝物のようで、思い出だけで心が温かくなる。本当にもらってばかりだった。私は彼らに何かできただろうか。私の英語はまだまだ伝わらないこともあったけれど、英語を話すことよりも大切な何かを教えてもらった気がする。



六日目 夜にはバンコクを出るんだ。そう考えると一週間しかいられないことが寂しくて仕方がなかった。この一週間は間違いなく私の人生の中で一番忙しく、一番楽しく、一瞬のように感じた最高の時間だった。それは私の周りのすべての人のおかげだと思う。家族、学校の友達、先生方の協力のおかげでタイでは貴重な体験をすることができた。引率の先生方、バンコク派遣のメンバー、短い間だったけど本当に大好きになった。タイの高校生、ホストファミリー、何にも代えられない時間をもらった。日本にいても、どこにいても周りに対する感謝の気持ちは絶対に忘れてはいけない大切なものだと思った。本当にありがとうございました。



# 愛知県・バンコク都 派遣事業報告書

愛知県立豊田北高等学校 1年 澤田志侑

## ~はじめての タイ ~

僕が思っていたタイはリゾート地が多く、きらびやかな寺院の街並みが続いているというイメージがありました。でもいざタイ・バンコクに降り立ってみるとビルがたくさん建設されトヨタ自動車の工場や早稲田大学日本語教室などもあり、日本との関わりが多くあることを感じました。



## ~サイアムニラミット鑑賞~



『サイアム』... “タイ王国の旧称”

『ニラミット』... “神様の力を借りて創造する”

というとても高尚な言葉の意味をもっているタイの歴史や文化をわかり易く、幻想的できらびやかな演出で表現したショーを鑑賞しました。ショーが始まる前に本物の“象”に触れることができ、とても興奮しました。タイに行ったら“象”に触りたい、乗ってみたいと思っていたので、とても嬉しかったです。

## ~バンコク都立 *Matthayom Ban Bangkapi* 高校訪問~

僕たちは3日目に高等学校訪問へ行きました。高校に着くと楽器を吹きながら先導し、日本の旗を振って歓迎してくれました。1日僕と行動を共にしてくれるバディーが“Mr.SHIYU SAWADA”という紙を持って出迎えてくれ、授業ではタイ語を英語に訳してくれました。

音楽と理科の授業を受け音楽ではクロン・ヤーオというタイの太鼓を叩き、そのリズムに合わせて踊りました。指先の繊細な動きはタイ舞踊の特徴で指先の芸術と呼ばれていて、指先をそらしながら踊ることがとても難しかったです。

午後からは、レザーキーホルダー、タイデザート、プレスレッド作りと、たくさん体験させてもらい、自分で作った物をお土産として持ち帰ることができました。僕たちからは“上を向いて歩こう”の歌のプレゼントと、日本と愛知県についてのクイズを英語で出し、楽しく交流し合うことができ、とても嬉しかったです。あっと言う間に楽しい時間が過ぎてしまい、帰る時にみんなで花道をつくってくれて、最初から最後まで、温かい国だなあと感じた日でした。



## ~ホームステイ1日目~

ホームステイ1日目は“クロコダイル&動物園”に連れて行ってもらいました。そこには“トラ”もいて、すごく近くで見ることができ、とても迫力がありました。子豚もいてミルクをあげる体験を初めてやり、とても可愛かったです。



そして、なにより緑色をした池の中に何十匹も大きなクロコダイルがいました。ワニのえさやりでは動物の肉をめがけてジャンプし、飛びついた時には『お~!』と周りの人達からも歓声があがりました。クロコダイルショーでは、ワニの口の中に手や顔をいれたり、ワニを持ちあげたりしていて、ハラハラドキドキして楽しかったです。

夜は外食に連れて行ってもらい、辛い物好きな僕は、トムヤムクンや魚料理を食べ、スパイシーなタイ料理を味わうことができました。香辛料の匂いが独特で、匂いに慣れればもっと違うタイ料理を味わうことができたのかもしれないと思いました。



## ~ホームステイ2日目~

ホームステイ2日目は船に乗り川を渡り、タイで有名なトゥクトゥクに乗りました。トゥクトゥクにはドアがないので風が直接体に当たって気持ち良かったです。

ホストフレンドが『どこ行きたい?』と聞いてくれたので、『temple』と答えると... 2015年8月にバンコク爆弾テロ事件があったところへ行き、黄色い綺麗なお花と、日本でいうお線香のような物を持ち、お参りをしてきました。

1泊2日という短い期間のホームステイのため、観光がメインになってしまった感じでしたが、タイの生活に触れることができ、とてもいい経験になりました。





## ~派遣事業を終えて~

タイに行って日本はタイにとって最大の貿易国であることや TOYOTA、HONDAなどの自動車関連企業の多くが進出しているなどが分かりました。タイ国内で暮らす外国人の中で日本人は第5位で、6万4000人ほどが暮らしていることも分かり、とても身近に感じました。



在タイ日本国大使館を訪問し、外交という仕事を通してお互いの国の政策や、日本人のサポートをしてくれていることなど、いろいろなことを知る良い機会となった派遣事業でした。それから、今までなんとなく英語を勉強していたが、バディーやホストフレンドがスラスラ英語で話す姿を目の当たりにした僕は『同じアジアなのに...なぜ?』もっと英語を身につけるようにしていこうと思うようになりました。世界共通語の英語を身につけ、コミュニケーションをとれるようになっていきたいと思っています。

今回、このような派遣事業に参加できたことを感謝し、自ら感じたこと、経験したことを発信し、何事もチャレンジしていきたいと思っています。

## ☆ ヨーロッパン クラブ(プ)…ありがとう ☆





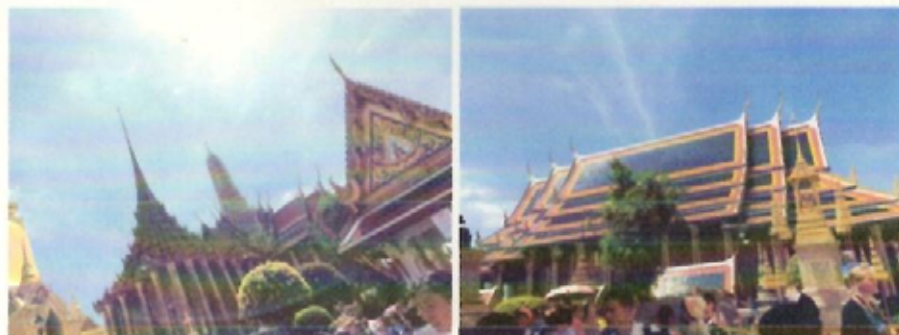
# 愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業報告書

西尾高等学校 松原菜々花

バンコク都への派遣を通して特に印象に残った以下の3点について報告します。

## 1. 日本とタイとの文化の違い

文化についてですが、主に宗教の文化について報告します。タイに着き、空港から知事表敬に向かうために車に乗り、外の景観を見て一番初めに思ったことは、きらびやかだということでした。広い道には王族の方々の大きな写真や、タイの国旗があり、この派遣期間中には本当に多くの美しいお寺を見ました。日本とタイとの大きな共通点の1つには仏教が挙げられると思いますが、同じ仏教でもタイは大乗仏教であり、国民の多くがこれを信仰しています。私の派遣の動機には、この同じ宗教間での違いを知りたいということがありました。そんな中で、教えてもらったり気づいた違いはたくさんありました。まず、色合いです。これは一目瞭然の違いなのですが、タイのお寺はどれも豪華で、カラフルで、日本のお寺とは大きく異なりました。なぜこうも日本と違うのか、私は疑問に思っていたのですが、その背景には、昔の人々は豪華なお寺を建てることで幸せがやってくると考えていたということがあり、ホストファミリーに教えてもらいました。また、タイの僧侶は日本の僧侶とは違い、結婚ができないことや、僧侶には触れてはいけないといった、私の予想の中にはなかった違いも知ることができました。これらの自分が興味を持っていたことを、実際に目で見て、現地の人に話を聞き、知ることができたということはとてもいい経験になったと思います。





## 2. タイ国内での地域ごとの環境の違い

今回の派遣は、バンコク都ということで、やはり首都は都会だという印象を受けました。しかし、トヨタの工場へ向かう際など、少し車で移動すると、ビルや車は減り、自然が増えていきました。タイというと、賑やかで、今も日々発展しているイメージがありましたが、郊外での自然に囲まれた環境での暮らしも見ることができ、地域ごとの違いを身をもって体感できました。



## 3. 英語力の向上

今回はタイへの派遣でしたが、会話の手段は英語でした。現地を案内してくれる方、現地の高校生、そしてホストファミリーと、7日間英語を使って話すことで、私の英語力はかなり向上したと思います。特にホームステイの期間では、ホストファミリーに日本について紹介したり、タイについて教えてもらったりとたくさんの会話をすることができました。それは、私の英語力を向上させ、大きな自信にもなりました。タイは公用語が英語ではないため、出国前は会話ができるのか、といった心配がありました。しかし、英語をお互いに使うことで、英語が公用語ではない、日本とタイを互いに紹介し、つなげることができ、英語の重要性を改めて感じました。



## 4. まとめ

今回の派遣を通して、タイという異国の地の文化を自分自身で体感でき、多くのことを発見

し、学ぶことができました。また、今後自分が国際的に活躍できる人材になるために、どのようなことが必要なのか、それを知ることができた、とてもいい経験になりました。この貴重な経験を必ず生かし、タイと日本をつなぐ役割を果たしたいと思います。





# Aichi - Bangkok

## High School Students

### Exchange Program 2016

愛知県・バンコク都 高校生交流事業 報告書

刈谷北高校 加古菜々実

#### 【タイの街並み】

私のタイへ行く前のイメージは、小さな街、舗装されていない道路、日本より発展していない、などでした。しかし、実際にタイに着くと、高いビルがたくさんあり、想像以上に発展していて、驚きました。

#### 【タイの人々】

タイは「微笑みの国」といわれるだけあって、とても優しく、私のイメージ通りでした。「こんにちは。」などの簡単な日本語を話せる方が多かったです。

#### 【タイの食べもの】

香辛料とスパイスを使った料理が多かったです。タイ人はココナッツが大好きです。

## 【タイの家】

私がお世話になったホストファミリーの家に着いて、一番驚いたことは、タイの家は土足禁止だということです。日本と同じところを見つけ、嬉しかったです。

## 【タイ人の英語】

タイ人の英語はなまりが強く、日本人の英語と大きく異なるので、聞き取ることが大変でした。しかし、日本人よりも英語スキルが高かったです。



## 【全体を通して】

今回の派遣を通して、派遣団の11名、ホストファミリー、高校訪問のときのボディ、タイで出会った方、といった素晴らしい出会いがたくさんありました。そのおかげで、ホームシックになることが全くなく、とても充実した1週間を過ごすことができました。むしろ、1週間では短いと感じたくらいです。

また、タイの文化を肌で感じることができ、貴重な経験をたくさんすることができました。

派遣中は、英語しかタイの方々に通じないので、相手に意見を伝えるには、自分の語彙力が乏しく、とても苦労しました。そして、学校の授業の内容だけでなく、自分から英語を学ぼうと思いました。





今回の交流事業では、タイを様々な角度から見ることができました。その中でも特に印象に残ったことについて書きたいと思います。

まず、バンコクが高層ビルが並ぶ大都会であることに驚きました。名古屋よりはるかに大きいのではないかと思います。交通量もとても多く、そこらじゅうで渋滞が起っていました。名物である原付の通勤ラッシュでは、その数に圧倒されました。また、走っている自動車の多くが日本メーカーであることには感動しました。



バンコクから出ると、今度は想像以上に何もなくてまた驚きました。

見渡す限りの田園風景にぼつりぼつりと家が建っており、高い建物など一つもありませんでした。そのようなところで住む人はどんな暮らしをしているのか気になりました。そして、どこまでも続く平原に、日本は山の多い国なのだと改めて気が付かされました。



トヨタのバンパー工場と在タイ日本大使館では、現地で働く日本人の方のお話を聞くことができました。タイ人の平均的な給料が日本の5分の1ほどなので、日本円で500万円する人気的高级車「フォーチュナー」は、タイ人にとっては2500万円だという話が衝撃的でした。それでも一般家庭で売れていると知り、タイ人は楽天的なのだと思います。大使館で働く人は、赴任地を選べないということや、英語以外にもう一か国語習得しなければならないという事実にも驚きました。僕たちが今実際に海外で働いている方に質問できる機会はめったにないので、とても興味深かったです。特に僕は海外での仕事に関心があるので貴重な経験となりました。



高校訪問では、まず登校時に吹奏楽の演奏と、全校生徒による熱烈な歓迎を受けました。放課の時間



にもたくさんの生徒がツーショット写真の撮影を頼んできたので、スターにでもなったかのような気分

でした。授業では、伝統的なダンスや太鼓の演奏、工芸品作りなど、普段できない体験をすることができました。お互いの国の出し物も盛り上がり、とても楽しく一日を過ごすことができました。





ホームステイでは、バンコク周辺のいろいろなところへ連れて行ってもらいました。特に印象に残っているのはワニ園で、日本では見ることのできないワニの口に頭を入れるショーや、ものすごい数のワニを見ることができました。ホストファミリーは皆英語を流暢に話すことができたので



驚きました。ホストマザーは常にゆっくりと易しい英語で話してくれたため、コミュニケーションで困ることはあまりありませんでした。しかし、自分の言いたい英語表現が出てこず、しどろもどろになってしまうことが多々あったので、英語力向上の必要性を強く感じました。

言語や文化は違うけれど、同じアジアで仏教国だからなのか、いろいろな場面で共通点を感じました。



お互いを思いやる気持ちが似ている点や差別がないことで、とても気持ちよく過ごすことができました。これからはアジアの国が協力してお互いを盛り上げていく必要があります。僕たちの世代のこの小さな交流がきっかけとなって、タイと日本、アジアと日本のつながりがより密接なものになってくれるといいと思います。

今回の派遣では、県庁の方や現地の方、先生など、たくさんの方々のおかげで、とても有意義な時間を過ごすことができました。この経験は僕の人生の中でも、とても重要な意味を持つと思います。高校訪

問やホームステイなど、通常の旅行では体験できないこともすることができました。本当にありがとうございました。



# BANGKOK, THAILAND 2016

Mito High School

Yuna Shiragaki



愛知県・バンコク都高校生交流事業

THE DATE AND TIME

July 27<sup>th</sup> ~ August 2<sup>nd</sup>

**FIRST**

約一週間のバンコク都滞在を通し心に残ったことやびっくりしたこと（文化の違いなど）を厳選してレポートにまとめたいと思います。

## 1. VISIT MATTHAYOM BAN BANGKAPI HIGH SCHOOL

実際に高校訪問をして現地の同年代の人たちとの交流を持ちました。たくさん友達ができうれしかったです。タイ人のみなさんはとても親切でフレンドリーだなと思いました。高校に入った瞬間生徒のみなさんの楽器演奏や、悲鳴でお出迎え。本当に歓迎してくれたのが伝わりました。



制服は日本のものにとっても似ていました。ここの高校はとても自由な感じで、高校の中で携帯を使ったり、アイスクリームを食べたりしていました。後者の色もパステルブルーと日本では考えられない色でした。最初にウェルカムパーティーみたいなものを開いていただき、ココナッツジュースや果物などが出ました。



この子はバディーの Na ちゃんです。とても控えめな子で、他のバディーの子よりもおとなしかったのですが、日本で流行っているカメラアプリを教えてあげたり、日本からのお土産をプレゼントしたりして仲を深めました。

タイの伝統的な衣装を着せてもらったり、腕につける飾りを作ったりしました。キーホルダー作りでは自分の名前を入れてもらいました。また、調理実習ではぜんざいのようなものを作ったりしました。授業体験では音楽と理科の授業を受けました。音楽ではタイの太鼓を習って、理科では植物の仕組みについて勉強しました。



とても楽しくて転校したいくらいでした。たくさん友達もできて、今でも連絡を取り合っています。みんな MISS YOU とか I LOVE YOU とメッセージしてくれてすごく嬉しいしタイにまた行ったらぜひ会いたいと思いました。

## 2.HOME STAY

顔合わせパーティーでは23歳のホストシスターの NITCHA さんとお母さんに会いました。とても優しくそうで楽しみになりました。



翌日ホテルからそう遠くない自宅に荷物を置きに行き POWER PUFF GIRLS(私たち三人)はお出かけしました。

## THE PLACES WHERE I'VE BEEN DURING HOME STAY

### DAY1

KOH KRED ISLAND  
VICTORY MONUMENT  
SI YAN MARKET AND TRAIN  
NIGHT MARKET RATCHADA

### DAY2

KLONG LAT MAYOM FLOATING  
MARKET  
CHATUCHAK MARKET



もう一人のホストシスター(20)の FRESH さんです。彼女は女性から男性に性転換しておりとてもイケメンでした。ホストファミリーは犬も飼っていてお目目の大きいとても可愛い犬でした。私たちのホスタハウスは5階建てで一階ごとの面積が狭目でした。

**FINALLY** タイがすごく大好きになったので機会があればまた行きたいです。また、タイと日本の仲をつなげるような人になれたらいいと思うのでタイ語を勉強したりしていきたいです。





## d(参考)

### 「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」参加者アンケート(まとめ)

( 高校生の回答を原則原文通り記載しています。 )

この度は「愛知県高校生訪問団バンコク都派遣事業」にご参加いただき、ありがとうございました。今後の参考とするため、アンケートにご協力ください。

1. どうして今回の派遣事業に参加しようと思いましたか？チェックしてください。

( 1 ) 国際交流に興味があるから【10】 複数可

( 2 ) タイに興味があるから【3】

( 3 ) 家族や学校の先生に勧められたから【5】

( 4 ) その他【2】

- ・自分の夢にとって最大のチャンスだと思った。
- ・語学に興味があった。

2. 今回の訪問先の中で印象に残ったところはどこですか？

以下の a~f の中から三つを挙げ、理由を書いてください。

a. バンコク都庁【2】

- ・豪華な所でとてもよくしてくれ、歓迎してくれた。
- ・想像していたよりものすごく都会だった。

b. トヨタ・バンポー工場【0】

c. Matthayom Ban Bangkapi 高校【11】

- ・タイの人々の歓迎が盛大だった。
- ・とても楽しくて、笑いが止まらなかった。
- ・バディと仲良くなれた。(複数回答)
- ・みんなすごく歓迎してくれて、心に残った。いろいろ経験ができた。
- ・日本人は本当に愛されていることを実感した。
- ・多くのタイの高校生と交流して、たくさん友達ができた。(複数回答)
- ・アクティビティーも楽しかった。
- ・同世代の高校生と交流でき、タイの高校の様子も分かった。

d. ホームステイ【12】

- ・ホストファミリーがとても良い人達でたくさんの体験をした。(複数回答)
- ・自分の第二の家族になり、一生の思い出になった。
- ・タイの人の温かさを肌で感じる事ができ、文化を知ることができた。
- ・本当の家族のように接してくれ、素敵な時間を過ごすことができた。
- ・現地の生活に触れ、家族とのコミュニケーションを通じてたくさん英語を使えた。
- ・2日間英語だけで過ごすというのは、とても上達につながった。
- ・一般の民家での生活を体験できた。

e. 王宮、寺院など【7】

- ・タイ人の仏教への信仰の深さがわかった。
- ・宗教の違いについて知ることができた。大仏や金伯が多く、靴を脱いでお祈りをする事が多かった。
- ・すごくキレイだった。観光地を回れて嬉しかった。
- ・タイの歴史や文化を学べた。色々な国の色々な文化が織りなされていた。
- ・同じ仏教の寺でも、日本とタイでは大きな違いがあった。

f. その他【4】

- ・ホテルのジム...(メンバーと)仲良くなれた。
- ・ホテル...一緒に行った他校の人たちとすごく仲よくなれた。
- ・最終日のディナーが最高だった。

3. 以下のプログラムの感想を記入してください。

(1) Matthayom Ban Bangkapi 高校訪問

- ・盛大な歓迎にとっても驚き、嬉しかった。(複数回答)
- ・タイの学生は日本の文化に興味を持っていて、良いコミュニケーションが取れた。
- ・歩くたびにアイドルのように写真を撮ってもらい嬉しかった。
- ・様々なアクティビティーが楽しかったので、もっと長く高校訪問がしたかった。
- ・全校生徒と出し物をしたかった。
- ・皆とても優しく、特にバディと仲良くなれた。(複数回答)
- ・現地の学校に行く機会はなかなかないので、貴重な体験ができた。
- ・日本とタイの制服は、デザインも求められている機能も違っていた。そういった違いを沢山見つけることができ楽しかった。
- ・授業以外の時間は日本の学生と同じで友人と互いに声を掛け合う姿が見られた。
- ・拙い英語にもきちんと返事してくれた。言語のすばらしさを実感できた。同年代の子と、しかも英語だけで会話するというのはとても貴重な体験だった。

## (2) ホームステイ

- ・ホストファミリーはとても優しく、様々な場所に連れて行ってくれた。(複数回答)
- ・都会からローカルな場所まで行くことができ、タイの雰囲気は大いに味わえた。
- ・土産をととても喜んでくれて、すぐに使ってくれて幸せだった。
- ・帰りにお母さんが泣いてくれて辛かった。もう一度会いたい。
- ・簡単な英語でコミュニケーションを取る楽しみを知ることができた。
- ・もっとホームステイの時間が欲しかった。(複数回答)
- ・4kmマラソンやボーリング等、皆がやっていないものをやれて嬉しかった。
- ・家族の息子さんが日本語を話せた。本当の家族のように接してくれ嬉しかった。
- ・お互いが、コミュニケーション力を高め合う良い機会だった。
- ・話が途切れた時に、静かになってしまったことがよくあったので、話題等を考えていけば良いと思った。
- ・タイ料理を教えてもらったり、こちらが日本料理や日本語について教えたりもした。
- ・私たちのホストは日本のこともあまり知らなかったが、それでもとてもよかった。
- ・たくさんの場所へ連れて行ってくれ、家族も温かく接してくれたが、ホームステイの受け入れは初めてだそうで、家の中ではすることがなく皆携帯を触っていた。
- ・一般家庭での日常生活を体験できてとても良かった。
- ・タイ語をたくさん覚えた。

## (3) その他

- ・スカイホテルでの食事や高校訪問など、普通の旅行では出来ないことが体験できたため、タイについてより興味を持つことができた。
- ・日本大使館の訪問は、普段できない貴重な体験になった。外交の仕事についても詳しく知ることができて良かった。
- ・トヨタ・バンポー工場では、日本の企業がどれだけタイで大事な役割を持っているかが分かった。
- ・ホテルではメンバーと交流する時間が多く取れ、仲良くなれたので楽しかった。
- ・ホテルがとてもキレイだったのと、ジムなど皆で集まれる所があって仲良くなった。
- ・バンコク都の方々の対応が丁寧だった。食事やホテル等とても快適に過ごせた。

## 4. 滞在期間中、困ったことや不便に感じたことがあれば、記入してください。

- ・食事、食品関係で少し困った。
- ・もう少しホームステイを長くしたかった。
- ・次のプログラムがいつから始まるのかを明確に知りたかった。
- ・移動時間が長く、お土産を買う時間が少ないと感じた。
- ・スケジュールが曖昧だったり、時間が急に変わることがあり対応に困った。



5. このような派遣事業を来年以降も実施することを検討していますが、どのようなプログラムがあると良いと思いますか？チェックしてください(いくつでも)

( 1 ) 博物館や美術館などの訪問【4】

( 2 ) 伝統芸能の鑑賞・体験【8】

( 3 ) 県進出企業の訪問【5】

( 4 ) 高校生との交流【12】

( 5 ) ホームステイ【12】

( 6 ) その他【0】( )

6. 事前説明会について改善点があれば自由に記入して下さい。

例：内容、回数、知事表敬など

- ・親を連れて行けないのが少し残念。
- ・タイでの出し物について、事前説明会でより具体的なことまで決められるとよい。
- ・事前に2,3回集まると良い。1回だと少ない気がした。(複数回答)
- ・もう少し必要なものや日程などの詳細を知ることが出来るとよかった。
- ・LINEなどを使ってクイズや歌を決めることができたので良かった。
- ・必要なお金、ホストファミリーの人数や構成等について知りたかった。
- ・高校生との交流と、ホームステイはもう少し長いとよかった。
- ・自分はアレルギー持ちなので、常に気を使っていた。現地の食事等について、もう少し情報が欲しかった。
- ・しおりにはもう少し詳細が記載してあると良かった。
- ・高校での発表の時、スムーズにいかないところがあったので事前に色んなパターンを考えておいてどんな場面でも対応できるようにした方が良かった。

7. 全体について、感想を記入してください。

- ・とても良いプログラムで普通の旅行では体験できないことばかりだった。
- ・たくさんの方のお陰で、とても快適な旅をすることができた。
- ・ホームステイの日数を増やして欲しかった。
- ・今まではあまりアジアには興味がなかったが、今回を機に興味を持った。また、会話はほぼ英語だったので、自分の英語もとても上達した
- ・色々な所に連れて行ってもらい、タイについて知ることができた。
- ・英語の発音方法が国によって違うことなど、異文化交流をすることができた。
- ・今までの人生の中で一番楽しくて一番速く終わってしまった一週間だった。
- ・ホームステイでは、本当の娘の様に接してくれたのが嬉しかった。
- ・タイの文化を知るだけでなく、タイに進出しているTOYOTA見学や日本大使館訪問など日本のグローバルな面も学べた。

